

会議名	国際酪農連盟日本国内委員会 「平成 17 年度国際会議出席報告会」
開催日時	平成 18 年 1 月 30 日 (月) 9 : 30~17 : 30
開催場所	九段会館 真珠の間 (東京都千代田区九段南 1 - 6 - 5)
主催者	国際酪農連盟国内委員会
参加人数	約 6 0 名 (会員団体関係者、サミット出席者 等)
1 . 会議の概要 (報告会資料添付)	<p>国際酪農連盟日本国内委員会 (J I D F 、通称 “ 日本国際酪農連盟 ”) は平成 16 年 4 月に 日本国際酪農連盟が (財) 日本乳業技術協会の一部門として統合し、国際酪農連盟 (I D F) に関わる活動を続けている (“ 畜産技術 ” 05 年 5 月号参照) 。 J I D F が主催する下記のプログラムによる報告会に出席して収集した情報を報告する。</p> <p>(1) I D F 常設委員会 (‘ 05 年 5 月 23 ~ 27 日 ・ (南アフリカ ・ マガリエスブルグで開催))</p> <p>1 . I D F 分析ウィーク 2 0 0 5 1 - 1 I D F 分析ウィーク 2005 (理化学分析 ; 乳の主要成分常設委員会) 久保田 哲夫氏 (森永乳業 (株)) 1 - 2 I D F 分析ウィーク 2005 (理化学分析 ; 微量成分 ・ 物理的特性常設委員会) 池内 義弘氏 (雪印乳業 (株)) 1 - 3 I D F 分析ウィーク 2005 (理化学分析 ; 食品添加物 ・ 汚染物質の分析法常設委員会) 佐藤 吉朗氏 (明治乳業 (株)) 1 - 4 I D F 分析ウィーク 2005 (微生物分析法常設委員会) 島川 泰久氏 (株) ヤクルト本社)</p> <p>乳 ・ 乳製品全般に関連する技術的な問題について、サンプリング、分析法、統計処理の詳細な項目ごとに、常設委員会メンバーにより行われている継続的な検討の報告、検討の経緯、承認事項、等について報告された。</p> <p>2 . 栄養 ・ 健康常設委員会 2 - 1 5 月 27 日開催 (オランダ ・ アムステルダム) 佐古 知行氏 (株) ヤクルト本社) 2 - 2 9 月 18 日開催 (カナダ ・ バンクーバー) 川上 浩氏 (雪印乳業 (株)) 食物繊維の定義、窒素蛋白質変換係数、トランス型脂肪酸、反乳製品連合への科学的対応、提案プロセスチーズ規格案、追加を含む発酵乳類規格案提案、等について報告された。</p> <p>3 . 規格常設委員会 (‘ 05 年 6 月ドイツ ・ ケルンで開催) 規格及び食品添加物合同常設委員会 (‘ 05 年 7 月ドイツ ・ ケルンで開催) 石田 洋一氏 (J I D F 食品規格専門部会長)</p> <p>4 . マーケティング常設委員会 (‘ 05 年 9 月カナダ ・ バンクーバーで開催) 林 勝行氏 (株) 日本酪農乳業協会)</p> <p>5 . 残留物質 ・ 化学汚染物質常設委員会 (‘ 05 年 9 月カナダ ・ シェラトンバンクーバーで開催) 鍵 勝行氏 (森永乳業 (株)) 乳中のダイオキシンレベル、動物用医薬品関連、等について。</p> <p>(2) F A O / W H O コーデックス部会 1 . コーデックスプロセスチーズ規格案ドラフティンググループ会議 (‘ 05 年 6 月ドイツ ・ ケルンで開催) 石田 洋一氏 (J I D F 食品規格専門部会長)</p>

適用範囲、製品説明、原材料、食品添加物、汚染物質、食品の名称、について。

2. 第 27 回コーデックス栄養・特殊用途食品部会（'05 年 11 月ドイツ・ボンで開催）
土田 博氏（明治乳業株）

日本から厚生労働省・農林水産省・食品安全委員会の関係官も出席。

議題 1；議題の採択
議題 2；コーデックス委員会及び他の部会から付託された事項
議題 3；栄養強調表示に使用するガイドライン：栄養素含量の表（食物繊維に関する条項を含む Part B）
議題 4；表示目的の N R V（栄養素基準値）の追加又は改定の提案に関する審議資料
議題 5；乳児及び年少児用の穀物を主原料とする加工食品の提案改定規格式案
議題 6（a）；乳児用調製乳（ステップ 6）および乳児用特殊医療用調製乳の改定規格式案（ステップ 3）：セクション A
（b）；乳児用調製乳（ステップ 6）および乳児用特殊医療用調製乳の改定規格式案：セクション B：乳児用特殊医療用調製乳
議題 7；乳幼児及び年少児のための特殊食餌用途栄養素物質の勧告リスト
議題 8；健康表示の科学的根拠に関する提案勧告案
議題 9；CCNFSDU の作業課題に対するリスク分析適用に関する討議書
議題 10；その他の業務および今後の活動
議題 11；次回会議開催日時と場所

（3）IDF ワールドデイリーサミット 2005・バンクーバ

（2005 年 9 月 17 日～22 日カナダ・バンクーバで開催）

1. IDF ワールドデイリーサミット 2005 概要 （連盟事務局）
45 国、848 人出席。JIDF からの参加 24 名。事務局長会議、総会、各種常設委員会、特別講演会（JIDF から初めて 3 課題発表）。次回以降の開催国として、2006 年；中国・上海、2007 年；アイルランド・ダブリン、2008 年；メキシコに決まった。
2. ワールドデイリーサミットフォーラム 小出 薫専門部会代表・明治乳業株）
IDF フォーラム統一テーマ；乳原料（原料としての乳成分）の将来形成に対する IDF の果たすべき役割とし、次のようなプレゼンテーションが行われた。
 - ・乳の価値を推奨し、守り、防衛する為の科学に裏打ちされた行動を
 - ・乳原料の重要性と IDF の活動
 - ・乳成分のセパレーション技術について
 - ・乳原料・乳素材の栄養とニュートリマーケティング
 - ・乳素材のマーケティング
 - ・乳原料 / 素材の貿易
3. 特別講演会
それぞれの特別講演会において、下記のようなテーマによる発表と討論があったことが報告された（特に報告すべきことをカッコ内に記した）。
 - （1）酪農・家畜の健康特別講演会 板橋 久雄氏（東京農工大）
セッション；酪農家にとって重要な家畜の疾病
 - ・世界的な家畜の主要伝生成疾患、・北米で発生した BSE をめぐる状況、・家畜の疾病が酪農に及ぼす経済的影響、
 - セッション；未来に向かっての酪農家の挑戦
 - ・家畜の福祉、・農場でのバイオセキュリティと食品安全性、・京都議定書：温室効果ガス削減への酪農の対応、
 - セッション；酪農における技術革新
 - ・乳牛飼養における技術革新（オーストラリア：人工衛星による草地管理、ルーメン内センサーの自動測定による病気の発生防止、大型パーラーと自動搾乳装置、

ビデオによる繁殖管理、乳成分の自動測定)・搾乳における技術革新(自動搾乳装置が二十数カ国に導入、EUで乳質低下、米国で100農場に約250台で平均頭数110頭で体細胞数に変わらないが細菌数は低下し労働計画の柔軟性が広がり、NZでは草地搾乳に導入の計画)

(2) 農場管理特別講演会 大木 信一氏(明治乳業株)

・特別な新酪農実践を要求する乳製品の新しい将来市場と消費者需要の概観(有機ミルク、消費者は自然な栄養健康機能を備えた牛乳を求める)・乳牛への栄養改変による乳成分調整の可能性(共役リノール酸、オメガ3脂肪酸) 特定市場向けの乳に対する乳牛の育種と成果(生産量重視から管理特性重視へ)・酪農、製造技術およびマーケティングを統合した改変によるプレミアム牛乳、酪農と乳業工場が共同で行う品質保証システム、実生産者によるパネルディスカッション(オーガニック、品質保証、環境認証)・アーラフーズ品質保証プログラムに基づく酪農全体認証(乳組成と風味、科学的・衛生的安全性、動物愛護、環境保全とトレーサビリティシステム)・フランスの酪農場における環境基準適合への取り組み、

(3) 乳業科学・技術特別講演会 松崎 勝氏(森永乳業株)

(3) - 1; 乳業科学・技術/栄養・健康合同セッション

「乳業科学・技術」と「栄養・健康」の合同セッションで、ミルクまたは非ミルク由来の生理活性素材を用いた機能性食品の開発技術に焦点が当てられていた。

(3) - 2; 乳業科学・技術セッション

(3) - 補; 乳業科学投稿セッション

(4) 環境ワークショップ 大森 敏弘氏(明治乳業株)

メーカや設計各社による最新技術の紹介が中心で、北米を中心とした水質汚濁事故と乳業との関わり、NZの乳業工場での水再利用システム事例、食品工場における膜利用技術、膜分離活性汚泥法による水処理、電磁波による水処理技術、など。

(5) 酪農政策・経済特別講演会 大崎 修嗣氏(中央酪農会議)

6のセッションにおいて次のような講演が行われた。・世界の酪農概況について、・世界のチーズ需給動向について、・オーガニック牛乳の需給動向について、・生乳生産者・乳業者・小売業者それぞれの役割、・乳たんぱくvs大豆たんぱく、・牛乳乳製品の優れた機能、・需給調整に向けたプログラム、・小売業による価格低下圧力への対応、・脅威にさらされる現行の需給調整システム、・先進国vs途上国、・適切な貿易ルールとは?、・先進国は実質的な市場解放を!、・途上国における貧困の減少に向けて、・今後の途上国における酪農乳業の発展について、・インドの酪農乳業・中国の酪農乳業、

(6) マーケティング特別講演会 藤村 忠彦氏(日本乳業協会)

マーケティング部門3グループ6件の報告の概要。

(7) ニュートリマーケティング特別講演会 鍵 裕明氏(森永乳業株)

ニュートリマーケティング:注目される乳製品の健康表示、乳業のマーケティング資料と戦略に関するケース・スタディ、等の10件の報告の概要。

(8) 栄養・健康特別講演会 川上 浩氏(雪印乳業株)

女性の健康と栄養、脂肪の恐怖、小児の健康と栄養、乳という一つの食品の様々な栄養機能をどのように伝えるか、等の13件の報告の概要。

<p>2．今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表課題・話題提供名</p>	<p>世界サミットと銘打つだけに先進国から途上国までに及ぶ酪農・乳業関連の広い分野についての諸問題が検討され、いずれも今後の研究開発分野として重要と思われる課題と思われる。いずれ公開される公式記録を基にした情報の分析・検討が必要である。</p>
<p>3．その他の発表課題で関心のあったもの</p>	<p>今回のサミットで報告された課題と、国内の生産者・消費者が感じている問題とは共通するものが多い。一方、我が国の学問・研究開発分野は縦割り意識が強く、現在のところ酪農の生産現場から消費者までの諸問題をより広い見地から横断的に考える場が少ないと感じられる。このような状況の下で、産・官・学にわたる酪農関連事項を考える場としても今後のJ I D Fの活動が期待されよう。</p>
<p>4．今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等</p>	<p>公募課題で提案される、たとえば人と牛の栄養分野の機能性、安全性などに関する新しい問題は、すでに世界各国の酪農現場や行政の場で取り上げられて研究や対応が進展しているものも少なくないようである。これらの問題について文献情報だけに頼ることなく、このような場も活用した生の情報収集・分析に努めなければならない。</p>
<p>5．報告者</p>	<p>針生 程吉</p>